



成人病（生活習慣病）*News Letter*

第45回日本成人病(生活習慣病)学会 開催にあたって

第45回日本成人病（生活習慣病）学会会長
(独) 労働者健康福祉機構理事長／東京大学客員教授 名川 弘一



第45回日本成人病（生活習慣病）学会の会長を務めさせていただくことは、大変光栄なことと存じております。関係の皆様にご心より感謝申し上げます。会期は、平成23年1月15日（土）、16日（日）の2日間、会場は、例年通り、都市センターホテルを予定いたしております。プログラムの作成過程におきまして、理事、評議員の方々から多くのご意見をいただきました。この場を借りまして、厚く御礼を申し上げます。頂戴したご意見を基に作成しました最終的なプログラムの概要をご紹介します。

特別講演としまして、門脇孝先生に「糖尿病に関するご講演をいただきます。教育講演としまして、吉岡泰夫先生に「病院の言葉を分かりやすく」を、後藤信哉先生に「加齢と血栓症—抗凝固薬・抗血小板薬の使い方—」をお話しいたします。Meet the Expert としまして、山縣邦弘先生に「生活習慣病と慢性腎臓病（CKD）」を、加藤雅明先生に「大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術」をお話しいたします。プレナリーレクチャーにつきましては、岩坪威先生に「アルツハイマー病」を、曾根博仁先生に「生活習慣病に対する食育指導」をお話しいたします。シンポジウムにつきましては、「生活習慣病時代におけるがんの予防と治療」、「職域における生活習慣病の診断と管理—ドック健診と医療機関の連携—」の2題を予定しました。なお、シンポジウム「職域における生活習慣病の診断と管理」は、日本医師会認定産業医制度研修会（3単位）として認定されますことを申し添えます。一般演題には59題の応募をいただき、循環器、脳神経・動脈硬化、代謝・内分泌、消化器、悪性腫瘍、健診・ドック、運動療法、腎疾患などのセッションでご討議をいただく予定です。また、ランチョンセミナー4題を予定しました。

平成19年に改正された医療法を受けて、一般社会ならびに医療機関では、がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病の4疾病にウエイが置かれるようになってきました。確かに、これら4疾病

と生活習慣の関係は深いものがあると考えられますが、これらの疾病以外にも腎疾患や脳神経疾患など、本学会と関係が深いと考えられる重要な疾患があります。今回の学術集会では、2日間の会期で参加者に充実した内容を学んでいただけるように、また、なるべく多くの疾患をカバーするように心がけ、第一線の先生方にご講演をお願いいたしました。

“「人」それぞれが健やかであるために”、これを本学会のメインテーマとしております。からだのどこにも病がなく健康であることは、もちろん理想的なことです。しかし、たとえ病があったとしても、その病を上手にコントロールして、健やかであること、これも大切なことであり、そのコントロールの仕方はその「人」によってそれぞれ異なるものとも思います。第45回学術集会では、そのようなことが学べるような場にしたいと考えております。

皆様には、是非、本プログラムの概要を俯瞰していただき、第45回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会へご参加をいただきたく、心よりお願い申し上げます。

今号の主な内容

- ◇ 第45回学会開催にあたって
- ◇ 第45回学会開催プログラム
- ◇ 市民公開講座開催のお知らせ
- ◇ 第1回教育集会開催を終えて
- ◇ 学会認定管理指導医申請について
- ◇ 寄稿文（教育集会に参加して）
- ◇ ワールドニュース
- ◇ 主な関連学会のお知らせ
- ◇ 入会のおすすめ、その他
- ◇ 編集後記

第45回日本成人病(生活習慣病)学会 プログラム(概要)

※敬称略

理事長講演

「日本成人病（生活習慣病）学会の現状と今後の課題」
跡見 裕（日本成人病（生活習慣病）学会理事長）

会長講演

「生活習慣病—進行癌に対する治療戦略—」
名川 弘一（東京大学）

特別講演

「生活病の分子機構と治療戦略」
門脇 孝（東京大学）

プレナリーレクチャー I

「アルツハイマー病の分子病態と根本治療」
岩坪 威（東京大学）

プレナリーレクチャー II

「生活習慣病に対する食育指導について
—現代日本の肥満とやせを中心に—」
曾根 博仁（筑波大学）

教育講演 I

「病院の言葉を分かりやすく」
吉岡 泰夫（別府大学）

教育講演 II

「加齢と血栓症—抗凝固薬、抗血小板薬の使用法—」
後藤 信哉（東海大学）

Meet the Expert I

「慢性腎臓病（CKD）の原疾患および進展因子としての生活習慣病の重要性」
山縣 邦弘（筑波大学）

Meet the Expert II

「ステントグラフト内挿術」
加藤 雅明（森之宮病院）

シンポジウム I

「生活習慣病時代」におけるがんの予防と治療
「がんの予防」

古野 純典（九州大学）

「がん薬物療法の現状と今後の展開」

室 圭（愛知県がんセンター中央病院）

「胃癌手術における BMI, Albumin のもつ意義：腹腔鏡下
胃切除は肥満症例に適しているか？」

比企 直樹（癌研有明病院）

「消化器がんの内視鏡治療」

藤城 光弘（東京大学）

「放射線治療の現状と展望」

井垣 浩、中川恵一（東京大学）

シンポジウム II 日本医師会認定産業医制度研修会（3単位）

職域における生活習慣病の診断と管理

—ドック健診と医療機関の連携—

「企業の社員健康管理における健診および事後指導と
治療の連携」

福井 敏樹（NTT 西日本高松診療所予防医療センタ）

「病院併設型人間ドック健診機構の立場より」

高橋 英孝（東海大学）

「産業医の立場より」

古河 泰（味の素株式会社）

「専門医の立場から」

西村 理明（東京慈恵会医科大学）

「専門医（高血圧）の立場より」

石坂 信和（大阪医科大学）

「専門医（脂質異常症）の立場から」

平野 勉（昭和大学）

ランチョンセミナー I

「糖尿病治療の新たな展開—イレクチン関連薬を中心に—」

寺内 康夫（横浜市立大学）

ランチョンセミナー II

「大腸癌補助科学療法の最新の知見」

倉持 英和（東京女子医科大学）

ランチョンセミナー III

「経口フツ化ピリミジンを用いた大腸癌術後補助化学療法の現
状と展望」

亀田 明良（亀田総合病院）

ランチョンセミナー IV

「ストップ！脳卒中—ステージに応じた脳卒中予防—」

橋本洋一郎（熊本市民病院）

市民公開講座のお知らせ

～膝痛・腰痛・骨粗鬆症 ロコモティブシンドローム～

日時：2011年1月16日（日）14:00～16:00（開場13時）
会場：都市センターホテル 3階『コスモスホール』
東京都千代田区平河町2-4-1

プログラム

開会挨拶

日本成人病（生活習慣病）学会理事長 跡見 裕

1. 「ロコモティブシンドロームに負けない、あきらめない100年使える骨・関節運動器の秘密」

東京大学大学院医学系研究科 整形外科学教授
日本整形外科学会 理事長 中村 耕三

2. 「ロコチェックで気づく！ロコトレで防ぐ！ーロコモのための自己チェックとトレーニングの理論と実際ー」

医療法人一心会伊奈病院 整形外科部長
高齢者運動器疾患研究所 代表理事 石橋 英明

閉会挨拶

第45回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会会長 名川 弘一

共催：第一三共株式会社

宛先・お問合せ先

〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町7-3-101
株式会社学会サービス内
日本成人病（生活習慣病）学会 市民公開講座 係
TEL：03-3496-6950 【平日10時～17時 12/28～1/5は連絡不可】

※この公開講座は事前申込制（市民向け）

第1回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会を終えて

担当理事 熊谷 一秀
昭和大学附属豊洲病院 外科

平成22年9月4日(土)の午後、本学会主催の第一回教育集会を東京ステーションカンファレンスにて開催させていただきました。本学会においても学会活動は国民生活、社会との接点を持つことが重要であるとの考えから、市民公開講座の開催、生活習慣病に係わるプロジェクト研究の提案などを行い、さらに学術集会、広報活動などを通じ成人病学・生活習慣病学の教育、啓発活動を進めてまいりました。また本学会の教育、啓発活動をより具体化するために学会認定管理指導医制度を設け、成人病・生活習慣病に高い関心を持つ医師を教育、認定し生活習慣病関連の医療の向上を図ることを企画しております。それに伴い質の高い学会認定管理指導医ならびにコメディカルスタッフを多く育てることを目的として教育集会を開催させていただきましたこととなりました。

今回の教育集会は第一回目ということで、成人病・生活習慣病において頻度が高く、重要な疾患、病態を採りあげ各分野で指導的な立場の先生方に講演をお願いいたしました。プログラムは大腸がんと生活習慣(渡邊聡明先生)、脂質異常症と動脈硬



化(寺本民生先生)、脳卒中の予防、治療の最前線(北川泰久先生)、CKDと生活習慣病(富野康日己先生)、糖尿病の予防、治療の最前線(岩本安彦先生)であり、各講師の先生方には渾身のご講演であったと感じられ、教育集会受講の方々からも素晴らしい講演内容であったとの感想や大いに勉強になったとの意見を多くいただきました。参加者は医師87名、コメディカル40名計127名でありましたが、多分野にわたる医師、看護師、管理栄養士、健診事業に係わる保健師など多岐にわたる方々に参加をいただきました。次年度は教育集会の公告を早くに提示いたしますので、より多くの方々の参加を期待しております。本学会教育集会に関するご意見、ご希望などがあれば学会事務局までご一報いただければと存じます。

なお、教育集会参加は学会認定管理指導医の申請、更新の重要な業績となりますのでご配慮いただけたら幸いです。

最後に教育集会開催にあたり絶大なる協力をいただきました跡見理事長ならびに担当理事、理事の諸先生方、学会関係者の皆様に重ねて厚く御礼申し上げます。



受付風景



受講風景



質疑応答

学会認定管理指導医の申請について

担当理事 熊谷一秀
昭和大学附属豊洲病院外科

日本成人病（生活習慣病）学会では本学会の教育、啓発活動を具体化するために今般、学会認定管理指導医制度を設けることといたしました。学会認定管理指導医制度規定（案）は先の学会 News Letter に掲載いたしました。今後の運用は平成 23 年 1 月の本学会理事会、評議員会におきまして詳細な部分も含めて承認後、規約（案）がとれ学会認定管理指導医制度が正式に発足の運びとなる予定です。

以下に現在ほぼ決定している学会認定管理指導医制度規定の一部を抜粋いたしますので、申請時の参考にしてください。

1、認定管理指導医の申請に必要な書類

- 1) 認定管理指導医資格認定申請書
- 2) 履歴書
- 3) 医師免許証（写し）
- 4) 本学会学術集会参加証（写し）
- 5) 本学会教育集会参加証（写し）
- 6) 業績目録（過去 5 年間における本学会の講演、座長などの学会抄録の写し。生活習慣病に関わる論文、他学会における講演などの記録の写し。）
- 7) 本学会評議員の推薦書

2、認定管理指導医申請には以下に定める業績の 5 点以上が必要です。ただし、本学会学術集会あるいは教育集会に 2 回以上の出席が必須です。

- 1) 本学会の学術集会出席（2 点）：参加証の写し
- 2) 本学会での発表（筆頭者 1 点、共同演者 0.5 点）：抄録号の写し
- 3) 本学会の座長（1 点）：抄録号の写し
- 4) 本学会「教育集会」出席（2 点）：教育集会受講票の写し
- 5) 生活習慣病に関する論文発表（筆頭著者 1 点、共著者 0.5 点）：表紙の写し
- 6) 他学会、研究会の成人病・生活習慣病に関する発表（0.5 点）：抄録号の写し

※平成 23 年度は平成 23 年 10 月 1 日をもって応募を締め切る予定ですのでよろしくお願い申し上げます。なお、資格認定申請書は学会ホームページよりダウンロードできるように準備中です（他の書式は自由）。詳細は学会ホームページ上で順次ご案内申し上げます。ご参照ください。

第1回日本成人病（生活習慣病）学会教育集会に参加して

昭和大学附属豊洲病院 薬局長
伊藤 葉子

生活習慣病とは、高血圧、糖尿病、脂質代謝異常、肥満などであり、メタボリックシンドロームの同義語として、一般市民にも広まり最近健康診断でもチェックされるようになりました。該当者は生活習慣病を予防するために食生活、運動、禁煙など生活改善の必要性を意識し取り組もうとしていますが、正しい理解の上で実行できているのかは疑問です。今回の教育集会に参加し、LDL-Cと動脈硬化症発症と密接に関係していること、メタボリックシンドロームはCKDの発症と深い関係があることなど病態について、また、薬剤についてはLDL-C低下効果を有するスタチンの有効性、脳動脈閉塞患者に使用されているt-Pa製剤も発症後3時間以上経て使用しても再開通するなどの有効性、さらに新たな糖尿病治療薬DPP-4やGLP-1などの有効性が示され、新たな情報を得ることができました。食生活1つとっても、家族の中に高脂血症者がいれば動物性脂肪を避け、肉類は脂の少ない赤身肉を選択していましたが、

大腸がんの危険因子には動物性脂肪のn-6系多価不飽和脂肪酸だけでなく赤身肉や加工肉の過剰摂取も挙げられていました。また、昔から食物繊維は便秘予防に有効、野菜や果物も大腸がん発生抑制に良いと言われ摂取してきましたが、それほど密接な関連性はないとのことでした。生活習慣病予防に大きく関与している



開会の辞（跡見理事長）

食生活では、本人の理解と実行は当然ですが、家族の健康を考え日々料理されている主婦（家庭の料理人）の理解と実践がカギとなってくると強く感じました。

成人病・生活習慣病は、本人だけでなく家族の生活も変えてしまうことになります。メタボを軽視することなく、予防に取り組むには十分な知識が必要であり、今後も継続してコメディカルや一般市民への啓発活動を行っていただくことを切望いたします。



受講風景



受講風景



受講風景

ワールドニュース

アンジオテンシン受容体拮抗薬により癌発生リスクが増加する可能性が指摘される

筑波大学 救急集中治療部
河野 了

高 血圧や心不全の治療に広く用いられているアンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB) の使用により、癌の新規発症リスクがわずかではあるが有意に上昇させるとする研究結果が *Lancet Oncology* に掲載された。これまで CHARM 試験において致死性癌の発生率が偽薬群より高い (2.3%対1.6%、 $p=0.038$) ことが報告されていたが、筆者らは今回、評価項目に癌を含む 5 件の大規模臨床試験 (合計 68402 症例) を解析し、ARB 投与群では非投与群に比較して癌が約 10%増加していたことを報告した (7.2% vs 6.0%、RR: 1.08、95%CI: 1.01-1.15、 $P=0.016$)。癌の発生は ACE 阻害薬併用の有無に拘わらず有意に多く、臓器別の検討では、肺癌の新規発症リスクが有意に高かった (0.9% vs 0.7%、RR: 1.25、95%CI: 1.05-1.49、 $P=0.01$)

メタ解析の平均年齢 (65-69 歳) における Number needed to harm (NNH) は 4 年間で 143 人 (95%CI 76-793) であった。ただし、癌による死亡については ARB 投与群 1.8%に対し ARB 非投与群 1.6%であり明らかな差はなかった。基礎的研究でも、アンジオテンシン II 受容体は細胞の増殖、血管新生、癌の進行の制御に関与していることが示唆されている。しかしながら、今回の検討はメタ解析によるものであり患者個々のデータを用いた訳ではないため、性別や年齢、喫煙などの交絡因子を厳密に排除することはできないなど研究手法に問題があるとの指摘もあり、今後は新たな試験デザインでの検討が必要との指摘もある。生涯の癌発生率は 40%程度あることや、ARB の心血管系での有効性を考慮した上で投与継続については冷静に判断する必要がある。

主な関連学会のお知らせ(2011年1月~4月)

第 74 回大腸癌研究会 : 1 月 21 日

世話人 : 岩下 明德 (福岡大学・筑紫病院)

会場 : アクロス福岡 (福岡市)

連絡先 : 筑紫病院 病理部 TEL : 092-921-1011

第 39 回日本総合健診医学会 : 1 月 28 日~29 日

大会長 : 福武 勝幸 (東京医科大学)

会場 : 新宿京王プラザホテル (東京都)

連絡先 : 東京医科大学 臨床検査医学講座 TEL:03-3342-6111

第 41 回日本心臓血管外科学会学術総会 : 2 月 23 日~25 日

大会長 : 重松 宏 (東京医科大学)

会場 : 東京ベイホテル東急 (浦安市)

連絡先 : 東京医科大学外科学第二講座 TEL:03-3342-6111

第 75 回日本循環器学会総会・学術集会 (JCS2011) : 3 月 18 日~20 日

大会長 : 小川 聡 (慶應義塾大学)

会場 : パシフィコ横浜 (横浜市)

連絡先 : 慶應義塾大学 循環器内科 TEL:03-5363-3791

第 53 回日本老年医学会関東甲信越地方会 : 3 月 19 日

会長 : 寺本 民生 (帝京大学)

会場 : 提供大学医学部臨床大講堂 (東京都)

連絡先 : 帝京大学 内科 TEL:03-3964-1211

第 36 回日本脳卒中学会 (Stroke2011) : 3 月 23 日~25 日

大会長 : 内山真一郎 (東京女子医科大学)

会場 : 新宿京王プラザホテル (東京)

連絡先 : 東京女子医科大学 神経内科 TEL:03-3353-8111

第 108 回日本内科学会 : 4 月 15 日~17 日

会頭 : 永井 良三 (東京大学大学院)

会場 : 東京国際フォーラム (東京都)

連絡先 : 日本内科学会 TEL:03-3813-5991


第 84 回日本内分泌学会 : 4 月 21 日~23 日

大会長 : 松本 俊夫 (徳島大学大学院)

会場 : 神戸国際会議場 (神戸市)

連絡先 : 徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス 生体情報内科学

TEL:088-631-3111

 **編集後記** 

事務局からのお願い

勤務先変更・住所変更・所属、役職等変更事項のある方は、必ず事務局へメール・FAX・葉書でご連絡下さい。
(電話での変更受け付けは出来ませんのでご注意ください。)

入会のお勧め

本学会は成人病・生活習慣病を対象とした学術団体です。会員数は現在約 1,200 名で、医師以外にも保健、栄養、スポーツ、検診関係の方々が数多く参加し、それぞれの場で活躍しています。新たに認定管理指導医資格制度や企画委員会による介入試験などの活動が開始されますので、本会の趣旨に賛同して頂ける方の多数の入会をお願いします。

なお、申し込み用紙は事務局に直接連絡して取り寄せるか、ホームページの申し込み用紙をダウンロードしてお使いください。

また、ホームページの「入会のご案内」より直接お申し込みも出来ますのでご利用ください。

※ホームページから入会のお申し込みをされる場合、年会費のご入金を確認出来た時点で入会となります。(会員番号と手続き完了のお知らせメールを送信致します。)

ご入金の確認が出来ない場合は正式入会にはなりませんので、ご注意ください。

一般会員年会費：3,000 円／評議員年会費：6,000 円

入会金：なし

21 世紀もあつという間に、最初の 10 年 (first decade) を終え、いよいよ次の 10 年 (second decade) へと移る節目の年である。年を経ると時間が短く感じられ、あつという間に 1 年が暮れて行くと感じるのは私のみではないと考える。

今年の大河ドラマは、若者からお年寄りにまで人気のある福山雅治さんが坂本龍馬を演ずる「龍馬伝」で、毎日曜日夜は多くの方が画面に釘付けになったであろう。私事ではあるが、大学時代に最も感銘を受けた小説に、司馬遼太郎の「龍馬がゆく」と、五木寛之の「青春の門」があり、この大河ドラマを見るにつけその当時の熱い血潮のたぎりを思い出した。恐らく私と同年代の諸氏には同じ感慨を抱かれた方も多かったのではなかろうか。

1970 年～1980 年代にはまだ娯楽が少なく、かつ打ち込めるものが少なく、勢い「龍馬がゆく」や「坂の上の雲」、「翔ぶが如く」、「青春の門」等の小説に自分を投影しつつ考えることに熱中し、娯楽に興じる代わりに精神を高揚させていた方々が多かったのではなかろうか。最近の若手医師は、「やれ、気概が足りない」、「やれ、新進気鋭の精神が無い」等と評価されがちであるが、現代の若手医師は「余りに多量の情報量」、「余りに変化の早い世情」、「余りに多岐にわたる娯楽」等に暴露される、以前とは比べ物にならない厳しい生活環境に置かれており、「気概が足りなくなる」のも当然で、むしろ一つ事に集中できにくい社会環境にこそ問題があると考えるのが妥当ではなかろうか。

日本成人病（生活習慣病）学会に所属されておられる諸氏は、この様に人間的に心地よいと感じる事の出来る速度を、遥かに超えた猛スピードで進化する現代において、年の瀬だけでも、せめてこの一年を振り返り、かつ新しく訪れる次の一年に何をなすべきかを考えて過ごされるのは如何であろうか。

(青沼 和隆)

成人病（生活習慣病）ニュースレター
Vol.9-No.3 2010 年 12 月 1 日発行

発行人：跡見 裕

委員会顧問：増田善昭・山口 巖

責任編集委員：青沼和隆（筑波大学）

編集委員：馬原孝彦（東京医科大学）

河野 了（筑波大学）

北川泰久（東海大学八王子病院）

北山丈二（東京大学）

佐藤麻子（東京女子医科大学）

徳岡健太郎（東海大学八王子病院）

中川敬一（東京シーサイドクリニック）

横山 登（昭和大学豊洲病院）

吉田晴彦（東京大学）

印刷所：株式会社 文栄社

本誌広告申し込み先：日本成人病（生活習慣病）学会事務局
(株) 文栄社 までお問合せください。

お問い合わせ・資料のご請求

日本成人病（生活習慣病）学会

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷 3-40-3

(編集部) 株式会社 文栄社 内

TEL : 03-3814-8541 FAX : 03-3816-0415

E-mail : jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp

URL : <http://www.j-seijinbyou.gr.jp>